

シビル メール ニュース

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 松島眸

日本大学理工学部土木工学科教室主任に松島眸教授が就任

日本大学理工学部土木工学科の教室主任岸井隆幸教授の任期満了に伴う教室主任選挙において松島眸教授が選出され、10月1日より就任しました。



松島眸教授就任の挨拶

土木工学科の源流は1920年（大正9年）6月1日に設立認可となった日本大学高等工学校であり、設立趣意書の結びには、“高等専門ノ學術ヲ教授シ、国家有為ノ人材ヲ育成セントス。”とあります。設立の主眼は“職場で役に立つ技術指導者の養成”でした。土木工学科は2010年には設立90周年を迎えます。長い歴史の中で3万人に近い卒業生を輩出し、今日、建設会社の役員数や公務員とりわけ都道府県庁市役所等地方公務員の土木管理職者数が圧倒的多数を占めていて、土木工学科が社会の発展に大きく貢献してきたことは衆知の事実です。土木教室の教員職員そして卒業生の皆様方のご協力をいただき、土木工学科創設の原点に立ち返り、技術者教育を通して培われてきた日大土木の伝統を顧みながら、世界と国家社会の福祉と発展に寄与できる技術指導者の養成と土木教室の発展に尽力したいと考えます。

土木工学科教授 松島眸



岸井隆幸教授退任の挨拶

このたび、2年の任期を終えて、教室主任を退任することとなりました。この間、数多くの皆様から力強いご支援ならびに温かい激励を頂きました。誠にありがとうございました。教室を巡る入試状況は依然として厳しいものがあり、ここのところの経済状況の急変で就職戦線も影響を受けそうですが、土木教室としては新主任松島先生の下、一致団結して対処してゆきたいと考えておりますので、今後とも引き続き暖かく見守って頂きたいと存じます。これまでのご協力に感謝するとともに、改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

土木工学科教授 岸井隆幸

大学祭（土木博）が開催されます

11月1日（土）～3日（月）まで駿河台校舎において大学祭（青駿祭）が開催されます。土木工学科では、青駿祭開催中は1号館3階において土木博（Civil EXPO）を10:00～16:00まで毎日開催します。土木博では、各研究室の学生達が、それぞれ独自のテーマをミニ実験や模型、パネルを用いて研究紹介を行う予定です。さらに、本誌8・9月合併号で募集した写真による、写真展の開催も企画しておりますので、ふるってご参加ください。なお、土木博（Civil EXPO）について詳細は下記のHPにも掲載されておりますので是非ご覧ください。



昨年度写真展 最優秀作品

宮田秀太 「風」

〈土木博（Civil EXPO 2008）ホームページアドレス〉

http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp/civil_expo2008/index.html

土木博実行委員長鏡健太君からのメッセージ



Civil EXPO は、私たちの研究成果を OB・OG の方々へ発表し、さらに土木工学科に興味を持ってくれた高校生や保護者の皆様に学科の魅力を紹介する場所です。Civil EXPO を私たちの活気で盛り上げ、多くの来場者を楽しんでいただきたいと思います。

さらに、Civil EXPO は私たちにとっても多くの経験が得られる貴重な機会だと思います。それは、自分自身が考え仲間と協力しながら、来場者により正確に、より魅力的に物事を伝えることが求められるまたとないチャンスだからです。今後、社会に出れば今までよりもシビアに結果を求められ、その中で自分をどう表現するかが問われると思います。OB・OG の皆様にはぜひご参加していただき、私たちへ社会に出てからのアドバイス等をしていただければ、と考えております。

Civil EXPO には、触れて楽しめる展示物が多く設置されているので、ぜひご参加下さい。

キャンパスウォッチングが開催されます

11月2日（日）に船橋校舎において青駿祭と並行して、船橋キャンパスウォッチングが開催されます。キャンパスウォッチングでは、土木工学科は公開講義と入試・学科相談会を設けて学科紹介を行います。公開講義は、後藤浩専任講師が「海の脅威から国土を守るシビルエンジニアの活躍」と題して14号館3階1431教室にて11:00～11:30まで行います。入試・学科相談会は14号館3階1432教室にて12:00～15:00まで行います。

平成21年度AO入試が実施

先月号もお知らせ致しましたが、10月19日（日）に駿河台校舎1号館において、平成21年度AO入試が行われました。課題提出や面接を経て、今年度は65人が合格しました。

日本土木Who's Who

今回は、日本の都市計画の第一人者であり、非常勤講師として都市計画を担当した、石川栄耀先生です。

No.14

氏名：石川 栄耀（いしかわ ひであき）

専門分野：都市計画

略歴：

- 1893年（明治26年） 山形県に生まれる
- 1918年（大正7年） 東京帝国大学工科大学土木工学科卒業
- 1920年（大正9年） 内務省都市計画地方委員会技師として名古屋勤務
- 1933年（昭和8年） 内務省都市計画東京地方委員会
- 1944年（昭和19年） 東京都都市計画課長
- 1948年（昭和23年） 東京都建設局長
- 1951年（昭和26年） 退官 早稲田大学教授、初代の東京都参与
- 1955年（昭和30年） 死去



石川先生は、東京帝国大学卒業後、内務省（現在の国土交通省）都市計画地方委員会技師となり、名古屋や東京をはじめとした全国各地の都市の計画設計を手がけたと同時に我が国の都市計画の発展に大きな影響を与え、現在にもその名が残る都市計画家の1人である。石川先生の功績をたたえ、日本都市計画学会には、石川賞、石川奨励賞という表彰制度があり、都市計画に関する独創的または啓発的な業績を行ったものに授与されている。

石川先生は、内務省及び東京都在職中、数多くの都市の計画設計を行い、その都市と先生の都市への思いは現在にも継承されている。内務省技師として最初の赴任地であった名古屋では、土地区画整理事業を「都市計画の母」と呼び新市街地開発の手法として広め、現在の名古屋の都市計画の基礎を作った。また東京都在職中は、戦争によって破壊された都市の復興の責任者として、終戦直後（実際には8月15日以前から上からの指示で計画立案していたという）から戦災復興計画を樹立し、土地区画整理事業をベースに復興事業を行った。現在の新宿、渋谷、池袋をはじめとする山手線の駅前広場は、戦災復興事業によって生み出されたものである。さらに、日本最大の盛り場である、新宿の「歌舞伎町」も石川先生が中心となって計画設計し、実現化したものである。

東京都退官後、早稲田大学の専任教授に就任するものの、それ以前の内務省技師の時代から日本大学の非常勤講師として都市計画を担当し、数多くの学生を指導した。

「社会に対する愛情、これを都市計画という」という言葉を石川先生は残している。現在、土木工学科の都市計画の講義最終日には、その言葉を紹介しつつ石川先生の都市へのおもいを紹介している。

写真引用：石川允、「まちづくり一期一会 都市計画学会事始め」, 日本都市計画学会, 都市計画, 247号, p. 2, 2004年

参考文献：藤井肇男, 「土木人物事典」, アテネ書房, 2004年

鈴木信太郎, 「都市計画 Who was Who 石川栄耀」, 日本都市計画学会, 都市計画, 163号, p. 68, 1990年

最近の教員活躍状況



鎌尾彰司准教授が9月20日(土)にNHKにて放送された、「NHK 探検ロマン世界遺産〜ピサ・不屈〜」において、番組制作協力を行いました。協力内容はピサの斜塔に対して行われた補修工事に関する情報提供で、番組最後のテロップに名前が紹介されました。



金子雄一郎専任講師が、10月4日(土)、5日(日)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催された、日本交通学会第67回研究報告会に参加し、「DEAによる都市内鉄軌道事業の効率性評価」と題した論文を発表、交通経済学を専攻する研究者との意見交換を行いました。



塩尻弘雄教授、鈴木順一准教授、仲村成貴助手が10月12日(日)～17日(金)に中国・北京で開催された14th World Conference on Earthquake Engineering (14WCEE: 第14回世界地震工学会議)に出席し、論文発表を行いました。塩尻弘雄教授は「Analytical Method、

Modeling and Boundary Condition for the Response Analysis with Nonlinear Soil-Structure Interaction」(仲村成貴助手らと共著)と題して口頭発表を、鈴木順一准教授は「Identification Method of Dynamic Properties of Ground based on the Seismic Observation Record」(花田和史教授、仲村成貴助手らと共著)、仲村成貴助手は「An Estimation Method of Frequency Response Functions and Its Application to Microtremor」(花田和史教授、鈴木順一准教授と共著)と題してポスター発表を行い、いずれも活発な意見交換がなされました。WCEEは地震工学分野では最大規模の国際会議で、4年に1回オリンピック開催年に実施されます。



塩尻教授の発表の様子

今回は、世界中から約3,500名の参加がありました。

出前講義の状況



大沢昌玄助手が、10月8日に東京都世田谷区の田園調布学園中等部・高等部において、10月9日には平塚市の神奈川県立大原高等学校において、「都市を眺め、そして創る」と題し出前講義を行いました。田園調布学園中等部・高等部では、学園がある田園調布のまちづくりの歴史と美しい街を守るルールを説明し、大原高等学校では、平塚の都市形成史や都市構造を説明し、土木が行うまちづくりを身近な存在として感じ取っていただいた後に、都市の履歴書、「まちづくり」とは何か、まちづくり構想立案、実際のまちづくりプロジェクトの紹介を行いました。

土木工学科の出前講義プログラムは、http://www.cst.nihon-u.ac.jp/academy/civil_all.html に掲載されています。是非ご活用ください。